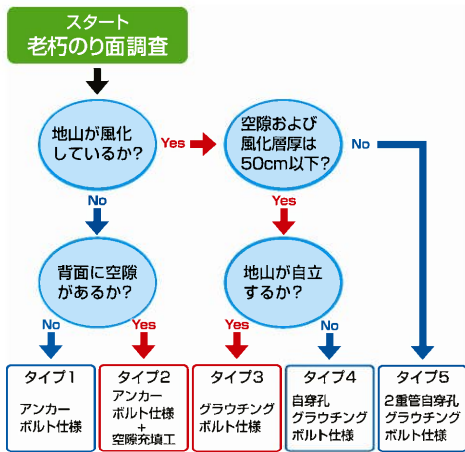


技術概要（様式）

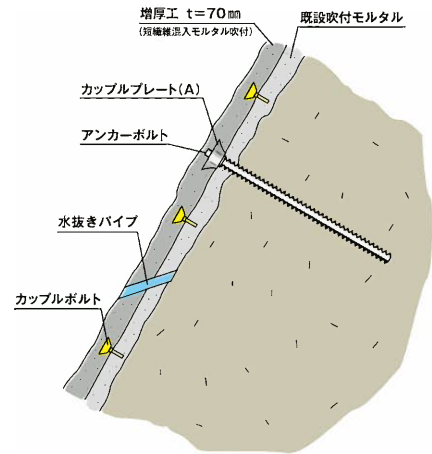
※別紙2

技術分類	安全、 環境 、コスト、ICT、品質、景観														
技術名称	のりフレッシュ工法	担当部署	事務局												
NETIS登録番号	QS-120026-A・QS-130019-A	担当者	鶴田 直												
社名等	福岡県のりフレッシュ工法協会	電話番号	092-651-4331												
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>既設モルタル吹付面の老朽化・劣化は経年変化だけでなく、その構造形状や材料性質、施工方法、立地条件などに起因することが一般的に知られている。本工法は、斜面に施工されている既設モルタル吹付面のうちモルタル劣化、あるいは構造や性質、施工、立地などに起因する老朽化が発生している斜面全体の安全確保及び従来施工での建設廃材発生量の軽減及び通行制限等抑制を目的として開発した。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>老朽モルタル吹付け面の補強や景観の向上を目的とした増厚吹付工、地盤と既設モルタル背面の密着性を高める空隙充填工、地盤の強化を目的とした地盤注入工により、のり面を安定させる工法です。 対策工は、老朽化の原因を排除・抑制可能な機能を有している工法の組合せを、のり面と背面地山状態によって5タイプから適切な工法を選択します。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>既設構造物の剥ぎ取り箇所の絞り込みによって、従来大量に発生していた建設廃材（コンクリート殻）を大幅に削減することが可能となる。 既設構造物と地盤との空隙部を充填する際に用いる特殊アンカーは、ロックボルト（鉄筋挿入工）の機能も有しており、風化した背面地盤の補強効果も期待できる。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>構造物健全性調査の結果、撤去の必要がある対象物の割合が50%未満であること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のり面勾配・・・1:0.3程度まで ・地盤のゆるみ領域が0.2～0.5m程度の浅層であること。 ・プラントヤードから施工箇所までの材料圧送距離が次の範囲であること。 ・エア圧送方式の場合:直高45m以内 ホース延長100m以内、エア併用ポンプ圧送方式(ユニラップ工法)の場合:直高150m以内 水平距離換算距離660m以内、長繊維混入補強土工法(ロービングウォール工法)の場合:直高100m以内 ホース長160m以内 <p>5. 活用実績</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">国の機関</td> <td style="width: 20%;">27 件</td> <td style="width: 20%;">（九州 16件</td> <td style="width: 20%;">、九州以外 11件）</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>204 件</td> <td>（九州 78件</td> <td>、九州以外 126件）</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>8 件</td> <td>（九州 4件</td> <td>、九州以外 4件）</td> </tr> </table>			国の機関	27 件	（九州 16件	、九州以外 11件）	自治体	204 件	（九州 78件	、九州以外 126件）	民間	8 件	（九州 4件	、九州以外 4件）
国の機関	27 件	（九州 16件	、九州以外 11件）												
自治体	204 件	（九州 78件	、九州以外 126件）												
民間	8 件	（九州 4件	、九州以外 4件）												

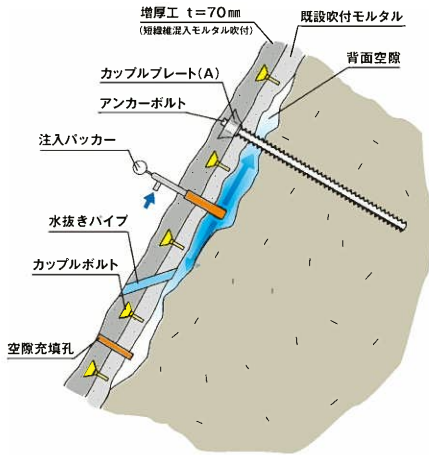
6. 写真・図・表
のリフレッシュ工法 タイプ選定フロー



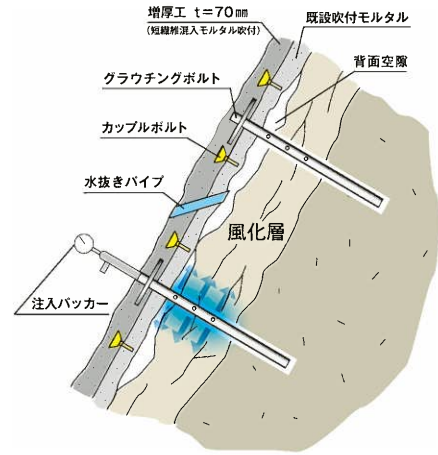
タイプ1 概要図



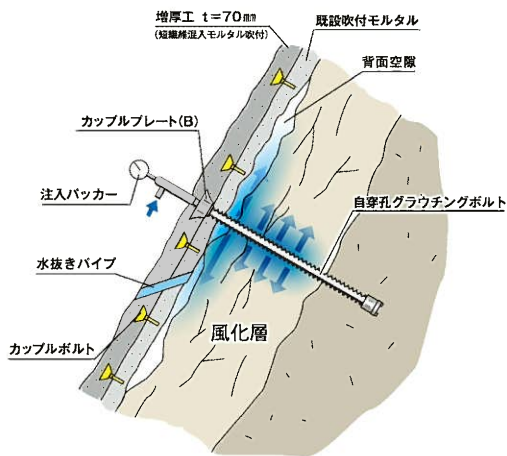
タイプ2 概要図



タイプ3 概要図



タイプ4 概要図



タイプ5 概要図

